

人々の基礎的生活を支える人間中心の開発

新型コロナウイルス感染症がまん延するなか、人々の健康を守ることは最優先課題です。同時に、質の高い学びの機会の提供、社会の安定をもたらす社会保障の整備、障害と開発、スポーツと開発など、人間中心の開発に協力していきます。



ガーナ：母子手帳の導入・普及プロジェクトでは、栄養カウンセリングサービス、尊厳あるケアと母子手帳の基本的な使い方を融合させた研修を全国で実施中。母親のニーズや生活環境に合わせて、母子保健や栄養の情報がしっかり伝われば、母親自身が受診や家庭でのケアについて意思決定できるようになる

課題の概要

「質の高い成長」とそれを通じた貧困撲滅

全世界でいまだ約7億人が1日1.90ドル未満で暮らす貧困状態にあり※、絶対的貧困の削減は、依然として最も基本的な開発課題です。「人間の安全保障」の理念の下、人々の基礎的生活を支える人間中心の開発を推進するため、包摂性に留意しつつ、貧困層、子ども、女性、障害者、高齢者など脆弱な立場に置かれた人々を含むすべて

の人々に対して、保健医療、栄養、教育、社会保障における課題に向けた協力、およびスポーツを通じた協力を行います。

特に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を踏まえ、保健医療分野での対策などに重点的に取り組むほか【→P.4を参照ください】、他の課題においてもこの感染症の影響低減に留意した事業展開を目指します。

※ World Bank, "Global Monitoring Report 2015/2016: Development Goals in an Era of Demographic Change"



37カ国

母子手帳の
導入・普及を支援した国
(1989-2020年度)



54カ国

栄養改善に関する人材育成研修を
実施した国
(2019-2020年度)



戦略と取り組み

みんなが安心して暮らせる社会を目指して

JICA世界保健医療イニシアティブの推進

目下の最大の課題であるコロナ禍への対応に注力し、健康を守る強靱な体制づくりを推進すべく、「JICA世界保健医療イニシアティブ」に取り組みます[→P.18を参照ください]。この強靱な体制の下、中長期的には、すべての人々が基本的な保健医療サービスを、負担可能な費用で利用できる「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)」の達成に貢献します。

ガーナ野口記念医学研究所では、最も多い時期にはガーナ国内のPCR検査の8割を担うなど、JICAが長年、感染症対策などで協力してきた病院や研究機関が現在、各国内と周辺国のコロナ対策の中核として奮闘中です。これらのネットワークを生かし、健康を守る国際協力を推進します。

栄養の改善

開発途上国の子どもを中心とする脆弱な人々の、栄養不良の二重負荷(低栄養と過栄養)も含めた栄養改善に取り組めます。保健、農業を中心にマルチセクショナルな取り組みを進めており、食と栄養のアフリカ・イニシアティブ(IFNA)ではアフリカの子ども2億人の栄養改善に取り組んでいます。

質の高い教育の拡充

子どもの学びを改善するため、質の高い教育を拡充します。ラオス、バングラデシュなどで教科書、教師用指導書の開発・改訂、またニジェール、マダガスカル、ガーナなどではコミュニティと学校の協働による教育改善に取り組むなど[→P.42事例を参照ください]、さまざまな協力



スポーツを通じた結束

南スーダン：JICAは南スーダン青年・スポーツ省と協力し、首都ジュバで「平和と結束」を掲げる全国スポーツ大会「国民結束の日」を2016年から毎年開催している。民族間のいさか이가絶えない同国にあって、全国各地から集まった若者たちがスポーツや交流を通じ、出身地域や民族に関係なく友好を深める機会となっている。

を展開しています。

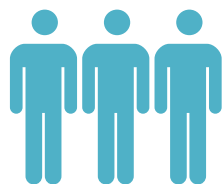
社会保障・障害と開発

人々の生活や社会の安定の基礎となる社会保障制度の構築を支援し、高齢者、女性、子どもや障害者など、脆弱な立場にある人々が包摂される社会の実現を推進します。社会保障政策の立案・実施を支える行政官などの育成のほか、JICAが長年、協力してきたタイ・アジア太平洋障害者センター(APCD)などとも協力しながら、障害者の社会・経済参加のための取り組みを、DX(デジタル・トランスフォーメーション)も活用して進めます[→P.43事例を参照ください]。

また、JICA事業において分野横断的に「障害と開発」の視点を組み込み、障害の主流化を推進します。

スポーツと開発

すべての人がスポーツを楽しめる平和な社会の実現を目指し、国内外のスポーツ関連団体と連携しながら協力を推進します。具体的には、開発途上地域におけるスポーツへのアクセス向上に取り組むとともに、スポーツを通して心身共に健全な人材育成、障害者や女性などの社会包摂、平和構築にも取り組みます。



317万人

「学びの改善」の
裨益者
(2020年度)

学校運営委員会が活動の中心に

マダガスカル的小学校では、教室や机、文房具、教科書などが足りない、教員が学校に来ないため授業が行われない、多くの生徒が読み書きや計算ができないといった問題を抱えています。こうした状況を変えようと、JICAは2016年から「みんなの学校プロジェクト」を実施しています。保護者や教員だけでなく、地域住民みんなで「学校運営委員会」をつくり、行政とも連携しながら自分たちで子どもを取り巻く環境の改善に取り組んでいます。

研修を受けた学校運営委員会のメンバーは、問題を分析し適切な計画が策定できるようになりました。また教室の整備、文房具や教科書の購入に加え、ボランティアによる補習授業が実施されるようになりました。補習授業については、プロジェクトが習熟度別速習法の導入をアドバイス。2019年に3カ月間、この速習法で算数補習授業を行うと、約17万人のテスト結果が平均で20%も向上しました。

また、この補習授業の手法を取り入れた教育番組が教育大臣のイニシ



コロナ禍による休校の遅れを取り戻すために棒などを使ってわかりやすい方法で行われている算数の補習授業

アティブで制作され、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う休校期間中に国営放送で放映され、生徒たちの学習の助けになりました。

手作り給食を146校で提供

学校運営委員会による活動は学習分野ではありません。コメの収穫が不安定で、食糧の供給が滞る毎年1月から3月の端境期に、生徒たちに食事を提供する試みを2017年に始めました。みんなでコメ、水、野

菜、調理のための労働を提供するというコミュニティ協働型の給食です。

このタイプの給食を提供する学校は2019年の59校から21年には146校に拡大。給食は保護者からの要望が強くマダガスカル大統領もすべての小学校で実施する方針です。

JICAはプロジェクトで開発した学習改善手法や給食活動を現在約1万校に普及しているところですが、国際機関やドナーと連携し全土に拡大できるように努力を続けています。

VOICE

成果を共有することが大きな力に



みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト
JICA専門家 森本美奈子さん

成果をわかりやすく見せることを重視しています。読み書きや算数に関しても、テスト結果を住民や教員にとってわかりやすい形で共有することが重要です。活動を実施し、テスト結果が改善していくことを実際に目にすれば、みんなの自信につながり、新たな活動に向かう力になります。

VOICE

西アフリカ発の成果を発展させています



JICA国際協力専門員
國枝信宏さん

西アフリカで先行していた「みんなの学校」の成果や教訓を活用して、マダガスカル関係者と共にモデルづくりとその普及を進めてきました。インドのプラサム教育財団が開発した習熟度別速習法による補習授業の導入やコミュニティ協働型の独自の給食など、さらなる進化を遂げています。

PROJECT

DAISYで障害者に「読む」楽しさを

アラビア語版の普及を目指す

社会に参加するうえで不可欠な知識や情報を得るのに、不便を感じている人たちがいます。例えば、印刷物を読むことに困難を感じる視覚障害者、学習障害者、上肢障害者の人たちです。こうした人たちの情報へのアクセス改善に、情報通信技術（ICT）が役に立つことがあります。

全人口の10%強に当たる約1,011万人の障害者が暮らすエジプトでも、2012年に障害者のエンパワーメントと社会参加を促進するICT戦略が策定されました。ところが、読書に困難を感じる人たちの強い味方となる電子書籍の国際規格DAISY（ディジー）を使った図書の制作は、英語などのアルファベットを使う言語では進んでいましたが、アラビア語で読める図書はありませんでした。

そこで、JICAは日本語DAISY制作を行う民間企業と連携し、アラビア語DAISY制作ソフトを開発。2019年3月から21年12月まで「情報アクセシビリティの改善による障害者の社会参画促進プロジェクト」を実施し、DAISYの啓発と制作技術指導者の育成に取り組んでいます。



アレキサンドリア図書館でさまざまな障害のある子どもたちを対象に実施されたDAISY図書体験会

技術者を育成し図書を制作

DAISYは「利用しやすい情報システム」ともいわれるもので、単に音声を録音したものではなく、目次から読みたいページに自在に飛べる機能があります。また音声と文字を同期させたマルチメディアDAISYは、読み上げている部分がハイライトされるだけでなく、文字の大きさや色、行間、背景色など、それぞれの見え方に合わせて表示を選択できるので

学習障害者にも有用です。

プロジェクトでは42人のDAISY制作技術指導者を育成したほか、33タイトルのアラビア語DAISY図書を制作しました。今後、教育、保健、防災などさまざまな分野の図書をDAISY化し、情報通信省や国立図書館のサイトで公開する予定になっています。また視覚障害や学習障害のある子どもを対象にDAISY図書体験なども実施。参加者はDAISY図書に「読める」喜びを感じていました。

VOICE

DAISYがエジプト中に広がってほしい



アイン・シャムス大学 スペイン語学科
ティーチングアシスタント マフムード・アンワルさん

視覚障害者対象のDAISY短期研修を受けました。エジプト人講師も日本人講師もわかりやすく親身に教えてくれました。初めて自分の手でDAISY図書を作った時は、まるで「新しい世界を発見した」かのような喜びでした。エジプト中の大学にこの技術が広まるのが私の希望です。

VOICE

大切な情報をDAISYで届けたい



特定非営利活動法人 支援技術開発機構
副理事長 河村 宏さん

コロナ禍で「命を守る」ために、文書を自分でしっかり理解して予防と治療に対応することの重要性を再認識しました。アラビア語DAISYは、エジプトだけでなく同言語圏の障害者にも役立つものだと思っています。研修修了者や読書障害者の期待に応えるよう支援を続けていきたいと思っています。